

過去の災害

自然災害による五ヶ瀬町の被害状況

西暦	年号	月	被害の状況	西暦	年号	月	被害の状況
1949	昭和24年	8月	ジュディス台風により、がけ崩れ、道路決壊、水田冠水が発生し、各地に大きな災害を与えた。	1991	平成3年	9月	台風19号により、家屋の倒壊や農作物、山林、通信施設など町内各地で多大な被害を受けた。三ヶ所神社旧拝殿も倒木の直撃を受ける大被害を受けた。
1950	昭和25年	9月	キジア台風により、主要橋梁は赤谷橋を除いてほとんどが流失し、室野山崩れのため一般住宅が倒壊の被害。	1993	平成5年	9月	台風13号により、家屋の倒壊や農作物、山林、通信施設など町内各地で多大な被害を受けた。
1951	昭和26年	10月	ルース台風により、本屋敷分校校舎大破、上組の農民道場(煙草収納所)が倒壊した。	1997	平成9年	8月	台風19号により、家屋の倒壊や農作物、山林、通信施設など町内各地で多大な被害を受けた。
1954	昭和29年	9月	台風12号により、鞍岡や三ヶ所で複数の犠牲者を出し、橋梁流出、家屋倒壊、道路決壊、山崩れ、耕地家屋の冠水・水没等の大被害を受けた。	2004	平成16年	8月 9月	台風16・18号により、家屋の倒壊や農作物、山林、通信施設など町内各地で多大な被害を受けた。
1971	昭和46年	8月	台風23号により、町立病院裏山が崩壊し病棟倒壊、複数の犠牲者を出した。	2005	平成17年	9月	台風14号により、家屋の倒壊や農作物、山林、通信施設など町内各地で多大な被害を受けた。家屋全壊5棟、半壊4棟、床上浸水2棟。

平成17年台風14号 (2005年9月4~6日)

2005年9月に来襲した台風14号は、1,300mmを超える期間降水量を観測し、宮崎県において甚大な災害をもたらしました。五ヶ瀬町でも土石流やがけ崩れ、地すべりが発生しました。

台風14号の特徴

- 最大風速50メートルの非常に強い勢力
- 大型の勢力(暴風域の直径が約560km)
- 1時間に10~20kmのゆっくりした速度
- 宮崎県に大雨をもたらしやすいコース



暖かく湿った空気が九州山地にぶつかり、九州東部に激しい降雨をもたらした。

▶台風14号の経路図

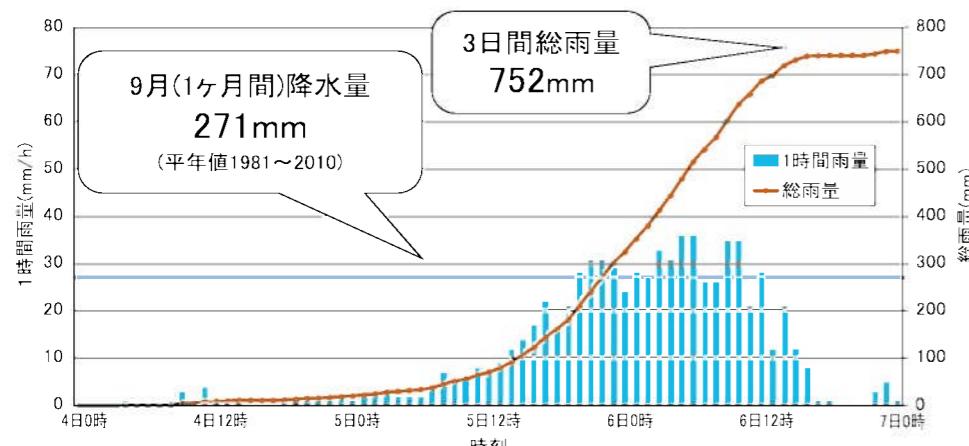


五ヶ瀬町内の被害状況



【三ヶ所地区】

三ヶ所川が氾濫し、浸水被害が発生しました。



▲期間中の雨の状況(五ヶ瀬町鞍岡)

五ヶ瀬町鞍岡観測所で、3日間の総雨量752mmを観測しました。これは9月の月間平均雨量の約2.8倍の雨が3日間で降ったことになります。

また、総雨量1,321mmを記録した南郷村神門観測所においても9月平均雨量の約2.9倍の雨が降っています。

日頃の備え

家族で防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときに、あわてず行動できるよう家族で普段から話し合っておきましょう。

また、災害に備えて家中の中と外とをチェックし、危険な箇所は早めに改善するようにしましょう。

チェック!

話し合いたい項目

□家の付近の浸水状況や、土砂災害のおそれのある箇所の確認

□災害が起こった時の身の守り方

□家族間の連絡方法と、最終的に会う場所

□災害別の避難行動

指定されている避難所とそこへ行くまでの経路の確認

□家庭一人ひとりの役割分担

家族の安否確認、非常持出品・備蓄品の準備・点検、避難経路の確保、隣近所への連絡など



※乳幼児・高齢者・病人・妊婦のいる家庭や、ペットを飼っている家庭はその避難方法も話し合いましょう。

非常持出品・備蓄品リスト

非常持出品・備蓄品の準備は防災対策の基本です。
リストを参考に家族構成に合わせて準備しましょう。

非常持出品

避難しやすいよう、できるだけコンパクトにまとめましょう。

食 料

- 飲料水(持ち運びに便利なペットボトル)
- 非常食 □乾パン
- アルファ化米、レトルトご飯
- 缶詰(魚、野菜、果物など)
- 携帯食 (チョコレート、キャンディなど)
- 粉ミルクとほ乳瓶 (赤ちゃんがいる場合)

救急・安全対策

- 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など)
- 包帯、ガーゼ、ばんそうこう
- 傷薬、消毒薬
- 持病のある方の薬
- お薬手帳
- マスク □ヘルメット
- 笛(ホイッスル)
- 地図(ハザードマップ)

貴重品

- 現金(小銭)
- 預金通帳、印鑑、クレジットカード
- 健康保険証
- 免許証など(身分を証明するもの)
- 家や車のスペアキー
- 連絡先を記入した手帳

日用品など

- リュックサック
- ビニール袋
- ティッシュペーパー
- ウエットティッシュ
- 新聞紙
- 筆記用具(油性マジックなど)
- ろうそく、ライター、マッチ
- 軍手、タオル
- 懐中電灯、ランタン
- 携帯ラジオ
- 電池
- 携帯電話の充電器・バッテリー
- 洗面用具、マウスウォッシュ



非常備蓄品

家族が最低3日間は過ごせるように備蓄しましょう。

- 飲料水(1人1日2~3リットルを目安)
- 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など)
- カセットコンロ、ガスボンベ
- 衣類(上着・下着など)
- トイレットペーパー
- バール □のこぎり
- スコップ □ロープ
- ガムテープ

～ローリングストック法～

非常持出品・備蓄品として保管する非常食などを、定期的に消費し、その分をあらためて補充することで、「食べながら備蓄する」ということができます。

賞味期限切れになってしまった前に消費する、経済的な方法です。

